



New way, New value

2008年3月期決算と 2009年3月期見通しについて

2008年4月30日
双日株式会社

□ プレゼンテーションサマリー

2008年3月期決算の概要

- 通期実績 : 経常利益 : 1,015億円 (修正見通しに対する達成率 102%)
当期純利益 : 627億円 (修正見通しに対する達成率 96%)
(金属資源、自動車、化学品を中心に順調に進捗し、経常利益・当期純利益は最高益を更新)
- リスク管理 : リスク計量手法の精緻化
- 格付けの状況 : S&P、R&Iが格上げ、JCRを含め、すべて投資適格格付けとなり、当初計画を達成
- 期末配当 : 1株当たり4円50銭、年間配当は前年比2円増配の8円へ

2009年3月期見通し

- 財務目標 : 経常利益 : 1,000億円
当期純利益 : 600億円
- 配当(予想) : 1株当たり9円 (中間:4円50銭、期末:4円50銭)

New Stage 2008 最終年度の取り組み

- New Stage 2008 最終年度は次の中期経営計画に向けた足場固めの1年
- 収益基盤強化
 - ▶ 収益ドライバーのエネルギー・金属資源、機械・宇宙航空分野を主体に、当初計画通り3,000億円の新規投融資を実行
 - ▶ グループ会社再編統合と繊維事業の再構築で収益構造を改善
- 財務基盤強化
 - ▶ 調達構造の安定性向上に向けた取り組みの継続とコミットメントラインの導入

■ 2008年3月期決算の概要

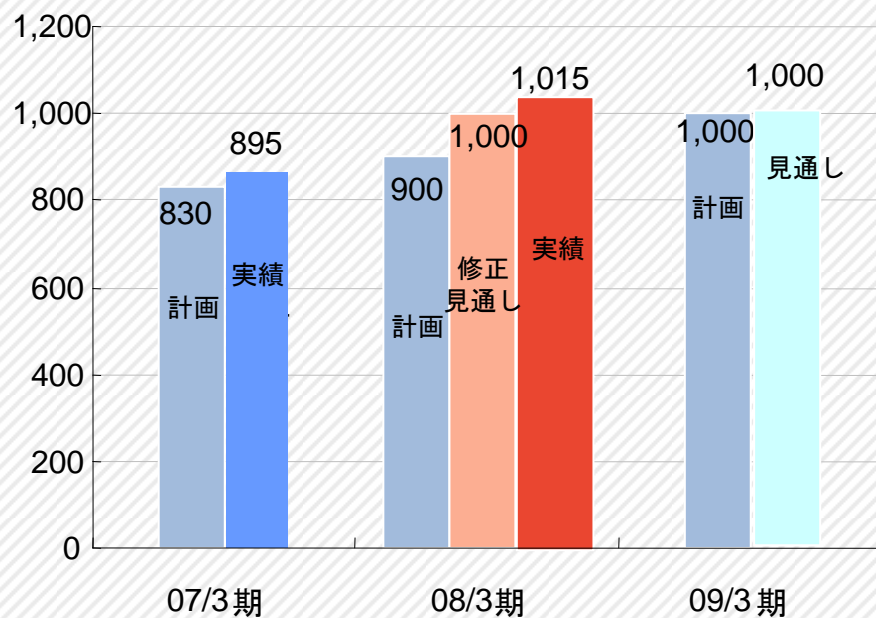
□ 財務目標 — 経常利益・当期純利益 —

経常利益・当期純利益ともに最高益を更新

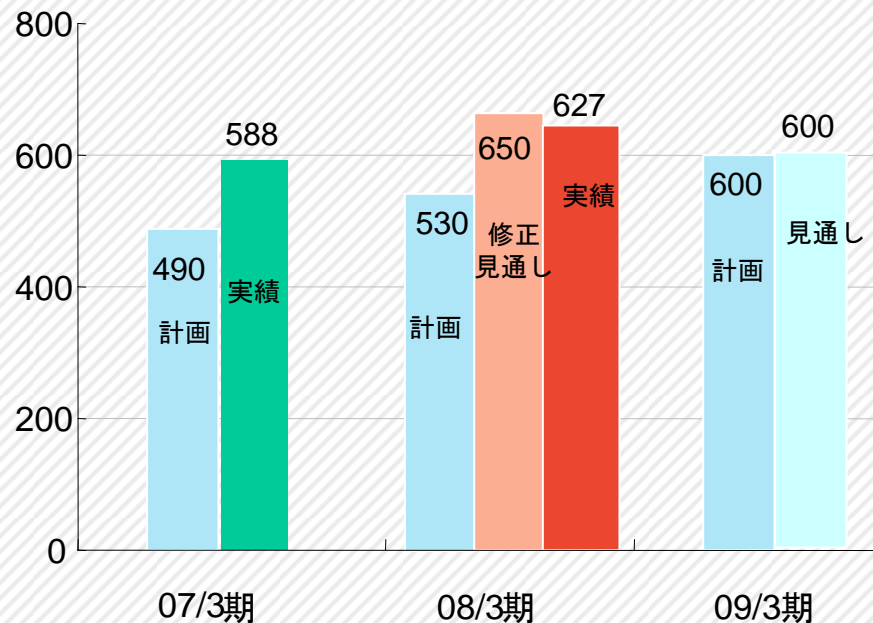
経常利益

当期純利益

(単位: 億円)



(単位: 億円)



□ P/Lサマリー

経常利益・当期純利益ともに最高益を更新

(単位:億円)

	08/3期 実績	07/3期 実績	増減額 (増減率)	08/3期見通し (07/10/30公表)	達成率
売上高	57,710	52,182	+5,528 (+10.6%)	56,500	102%
売上総利益	2,777	2,545	+232 (+9.1%)	2,770	100%
営業利益	924	779	+145 (+18.5%)	920	100%
経常利益	1,015	895	+120 (+13.3%)	1,000	102%
当期純利益	627	588	+39 (+6.7%)	650	96%
基礎的収益力	1,107	898	+209 (+23.3%)	1,030	107%

(ご参考) ROA : 07/3期 2.3% 08/3期 2.4%

(ご参考) ROE : 07/3期 12.8% 08/3期 13.0%

□ B/Sサマリー

(単位: 億円)	08/3末	07/3末	増減額		08/3末	07/3末	増減額
流動資産	16,760	16,151	+609	負債	8,500	7,702	+798
投資、 その他資産	9,934	10,044	▲110	有利子 負債			
資産合計	26,694	26,195	+499	短期	5,973	5,120	+853
				長期	7,018	8,057	▲1,039
				自己資本(※1) (純資産合計)	4,760 (5,203)	4,886 (5,316)	▲126 (▲113)
				負債・純資産合計	26,694	26,195	+499
自己資本比率 (%)	17.8%	18.7%	▲0.9%	ネット有利子負債	9,189	8,461	+728
流動比率(%)	121%	126% (※2)	▲5%	ネットDER(倍)			
長期調達比率 (%)	54%	61%	▲7%	(ネットDER(倍) 純資産合計ベース)	1.9 (1.8)	1.7 (1.6)	+0.2 (+0.2)

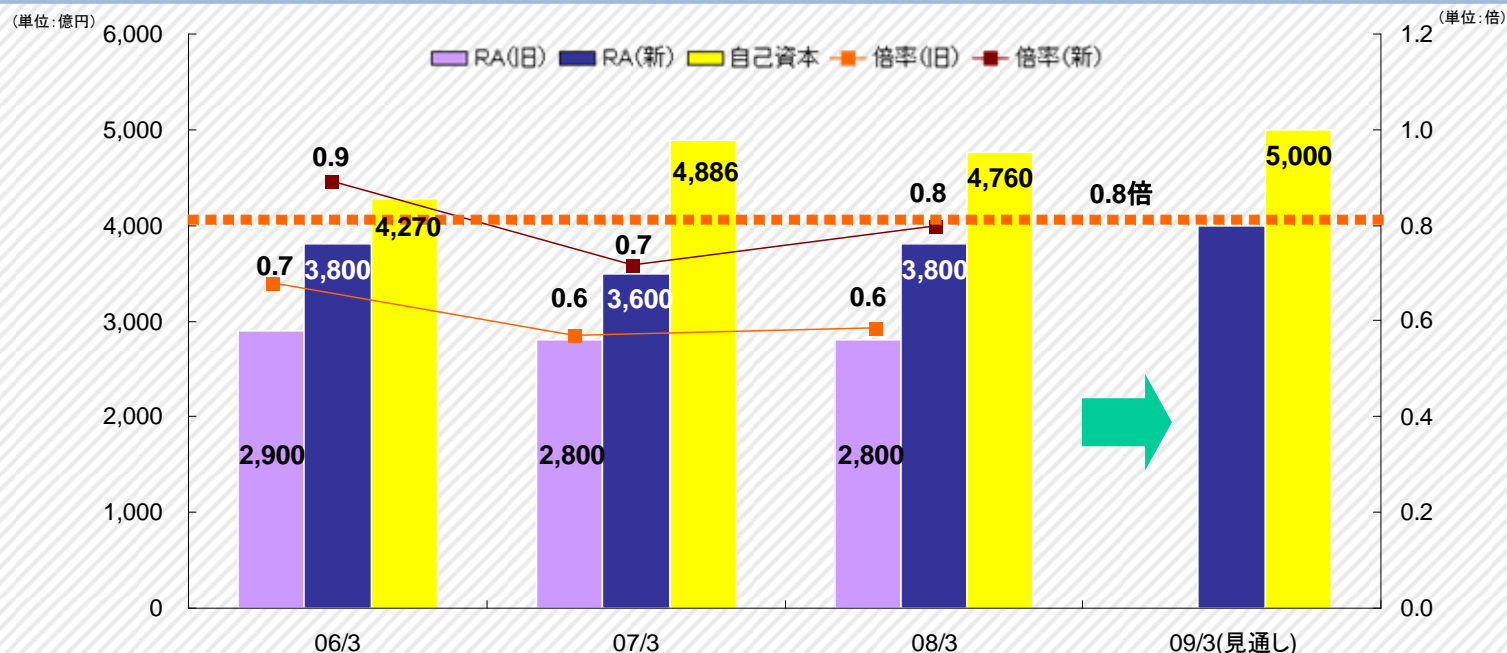
(※1) 自己資本＝純資産合計－少数株主持分

(※2) 07/3末流動比率は、優先株式買入消却原資として調達したCB見合い資金（750億円）を除いた実体ベース

□ リスクアセットの状況

リスクアセット計量手法変更によるリスク管理の精緻化

自己資本とリスクアセットの推移



リスクアセット計量手法の一部変更について (2008年3月期より適用)

- 事業リスクを計量する手法を開発し適用**
 事業投資関連の資産は、連結B/Sの勘定科目では、主に投資有価証券(未上場)、出資金、固定資産に計上される。これらは従来、信用、カントリーリスクを計量していたが、新たに信用リスクに換えて事業リスクとして計量することに変更した。当社の事業を33業種に分類し、業種毎のリスクウェイト(掛目)を用いて計量するもの。これにより、全ての事業について、より精緻に計量できるようになった
- 事業投資拡大という当社の方針/資産構成に適した手法**
 今回の変更により、当社の計量は、総合商社に重要な事業投資リスク計量を網羅的に計量する手法となり、現状の事業方針、資産構成に適した手法を構築できたと考えている

□ 格付けの状況 —投資適格格付けの取得—

S&P	R&I	JCR
<ul style="list-style-type: none">●会社格付け (2008年3月28日) <p>BB+ → BBB- (安定的)</p> <ul style="list-style-type: none">●長期優先債券(2008年3月28日) <p>BBB- → BBB</p>	<ul style="list-style-type: none">●発行体格付け (2007年12月13日) <p>BB+ → BBB (安定的)</p> <ul style="list-style-type: none">●短期格付け(2007年12月13日) <p>a-3 → a-2</p>	<ul style="list-style-type: none">●長期優先債務格付け (2007年4月3日) <p>BBB (ポジティブ)</p> <ul style="list-style-type: none">●国内CP格付け(2007年4月3日) <p>J-2</p>

収益基盤の強化とリスク管理の徹底によりA格付け獲得を目指す

■ 2009年3月期見通し

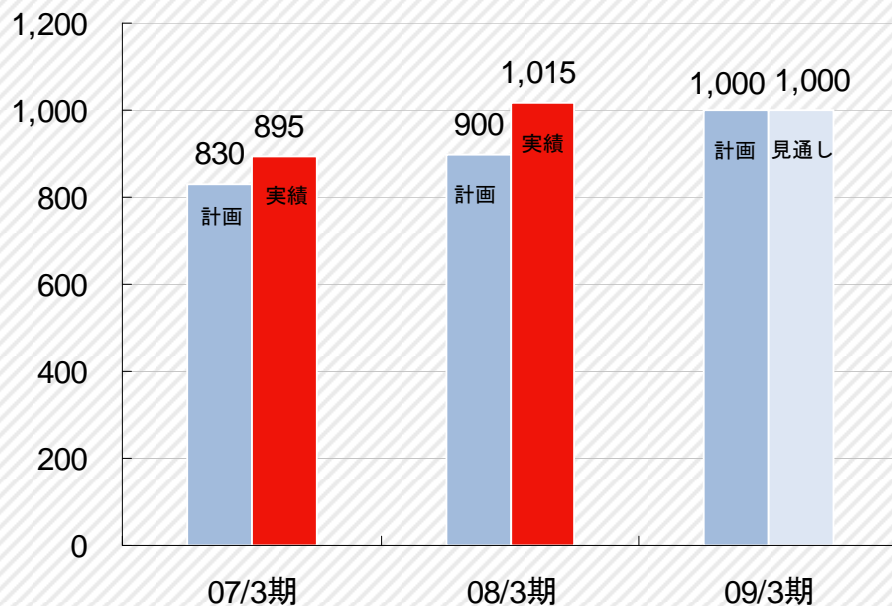
□ 財務目標 — 経常利益・当期純利益 —

New Stage 2008 最終年度の計画を達成

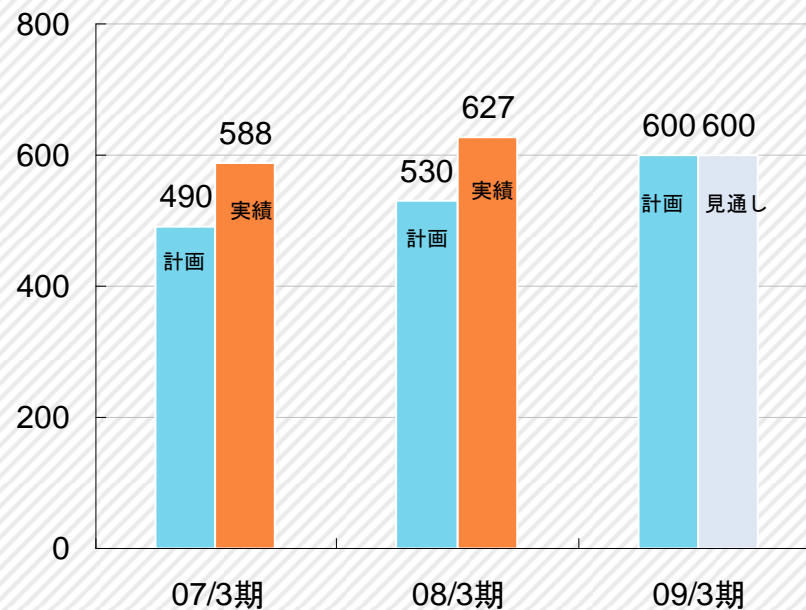
経常利益

当期純利益

(単位: 億円)



(単位: 億円)



□ 2009年3月期 見通し P/Lサマリー

New Stage 2008 最終年度の計画を達成

(単位: 億円)

<参考>

	08/3期 実績	09/3期 見通し	08/3期比 増減額	09/3期計画 (06/4/28公表)
売上高	57,710	58,000	+290	61,000
売上総利益	2,777	2,850	+73	3,000
営業利益	924	950	+26	1,000
経常利益	1,015	1,000	▲15	1,000
当期純利益	627	600	▲27	600
基礎的収益力	1,107	1,000	▲107	1,000

□ 2009年3月期 見通し 事業セグメント別経常利益

New Stage 2008 最終年度の計画を達成

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	08/3期比 増減額
機械・宇宙航空	233	245	+12
エネルギー・金属資源	361	370	+9
化学品・合成樹脂	170	135	▲35
建設・木材	47	110	+63
生活産業	1	25	+24
海外現地法人	128	90	▲38
その他	75	25	▲50
合計	1,015	1,000	▲15

□ 商品、為替、金利の市況予想

	08/3期 市況予想	08/3期 市況実績(期中平均)	09/3期 市況予想	2008年 市況実績(1-3月平均)
原油(Brent)(※1)	\$65/bbl(バレル)	\$73.2/bbl	\$90/bbl	\$96.5/bbl
石炭(一般炭)(※2)	\$56/t	\$65/t	\$110/t	\$115/t
モリブデン	\$31.0/lb(ポンド)	\$30.1/lb	\$29.5/lb	\$33.2/lb
バナジウム	\$6.0/lb(ポンド)	\$7.4/lb	\$6.5/lb	\$12.7/lb
為替(※3)	¥115.0/\$	12月決算 ¥117.7/\$ 3月決算 ¥113.8/\$	¥100.0/\$	¥103.8/\$
金利(TIBOR)(※4)	1.15%	0.79%	0.97%	

※1 原油・ガスの収益感応度 \$1/bbl変動すると、経常利益で約2億円の影響

※2 石炭は基本的に年間契約であり、SPOT価格の影響は受けない。また上記市況実績は当社の販売価格とは異なる

※3 為替の収益感応度 ¥1/\$変動すると、売上高で100億円程度、経常利益で3~4億円程度、自己資本で15億円程度の影響

※4 金利の収益感応度 1%変動すると、年間15~20億円程度の影響

■ New Stage 2008 最終年度の取り組み

□ New Stage 2008最終年度の取り組み

New Stage 2008最終年度は次期中期経営計画に向けた足場固めの1年

事業環境

- 資源価格高止まり
- 新興国を中心とした需要の高さ



- 円高・株安
- 米国経済減速

収益基盤

- 当初計画・新規投融資3,000億円の実行
- 成長事業の現状と今後の見通し
- 収益構造の改善

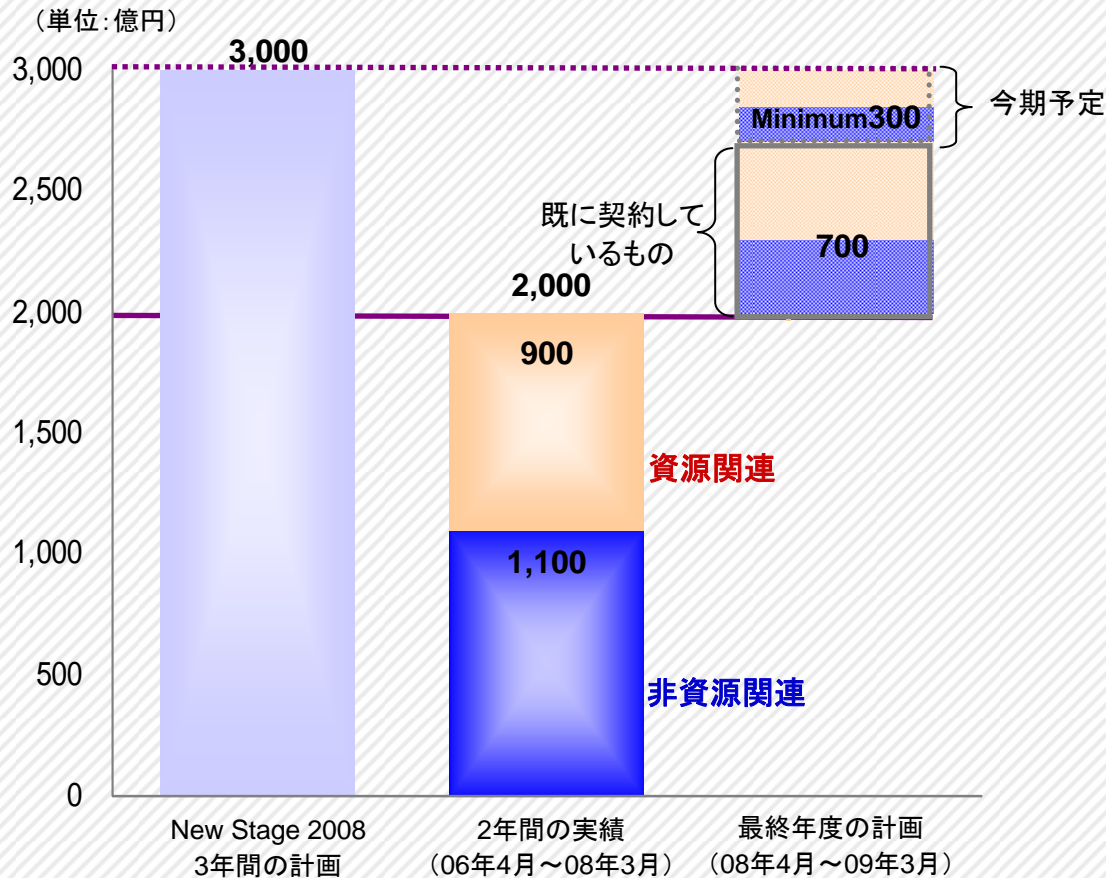
財務基盤

- 調達構造の安定性向上に向けた取り組みの継続
 - ▶ 流動比率 121%(08/3末) → 120%以上(09/3末)
 - ▶ 長期比率 54%(08/3末) → 70%程度(09/3末)
- コミットメントラインの導入

持続的な成長に向けた磐石な事業基盤の構築

□ 新規投融資3,000億円の実行

将来の成長事業への投資



—資源関連 2年間の実績—

■ 石油・ガス	600億円
■ 石炭	130億円
■ 金属資源	110億円
■ その他	60億円

—今後の予定—

- 北米モリブデン鉱山拡張プロジェクト
- 豪州非鉄関連プロジェクト等

—非資源関連 2年間の実績—

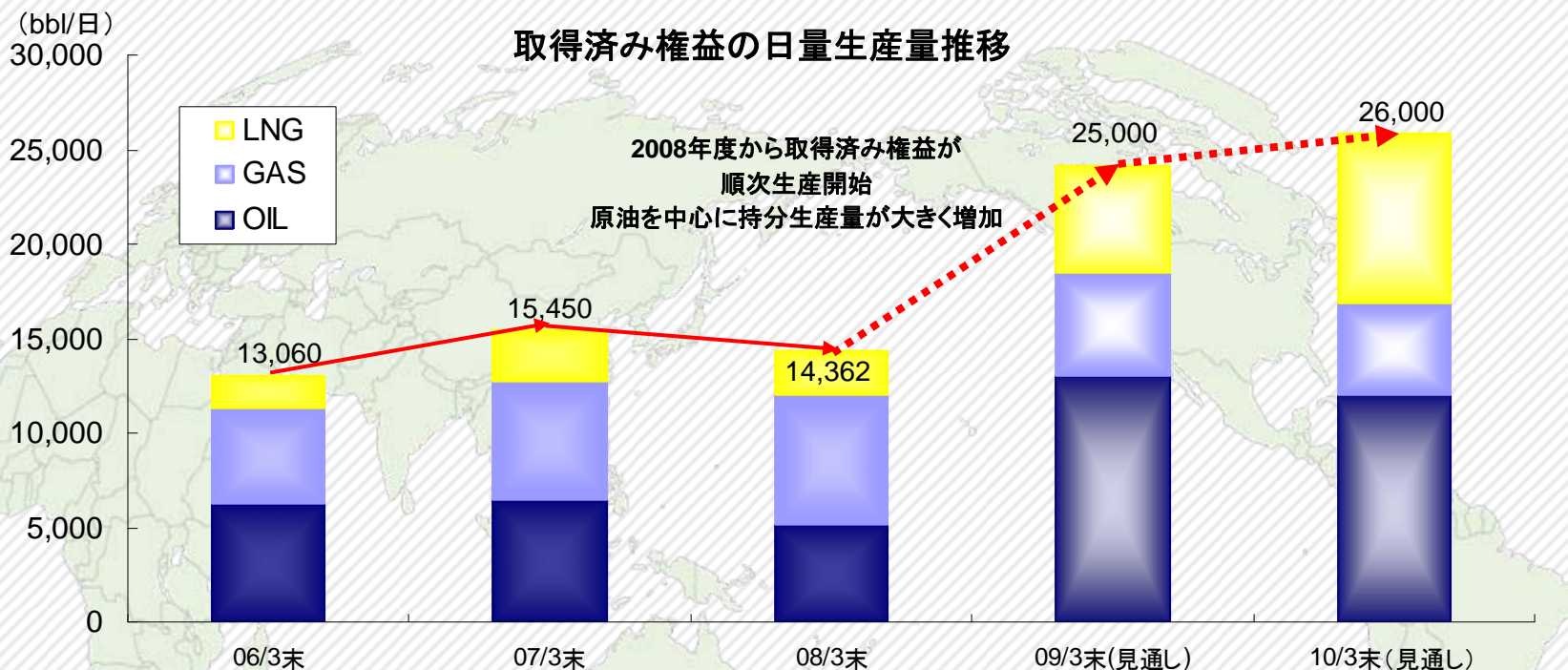
■ 機械・宇宙航空	240億円
■ 化学品・合成樹脂	80億円
■ 建設・木材	440億円
■ 生活産業	80億円
■ その他	260億円

—今後の予定—

- 海外自動車販売会社買収等
- 豪州工業塩増資等

□ 成長事業の現状と今後の見通し —石油・ガス・LNG—

NS2008期間中に実施した新規投融資のリターンは2009年度から本格化へ



2008年度生産開始予定権益

案件名	生産開始時期	持分生産量(ピーク時)
メキシコ湾 深海油田	2008年12月	9,000bbl
ブラジル 深海油田	2009年1月	2,000bbl
豪州 海上油ガス田	生産中(2008年4月取得)	3,000bbl
インドネシア LNG	2009年1月	7,000bbl

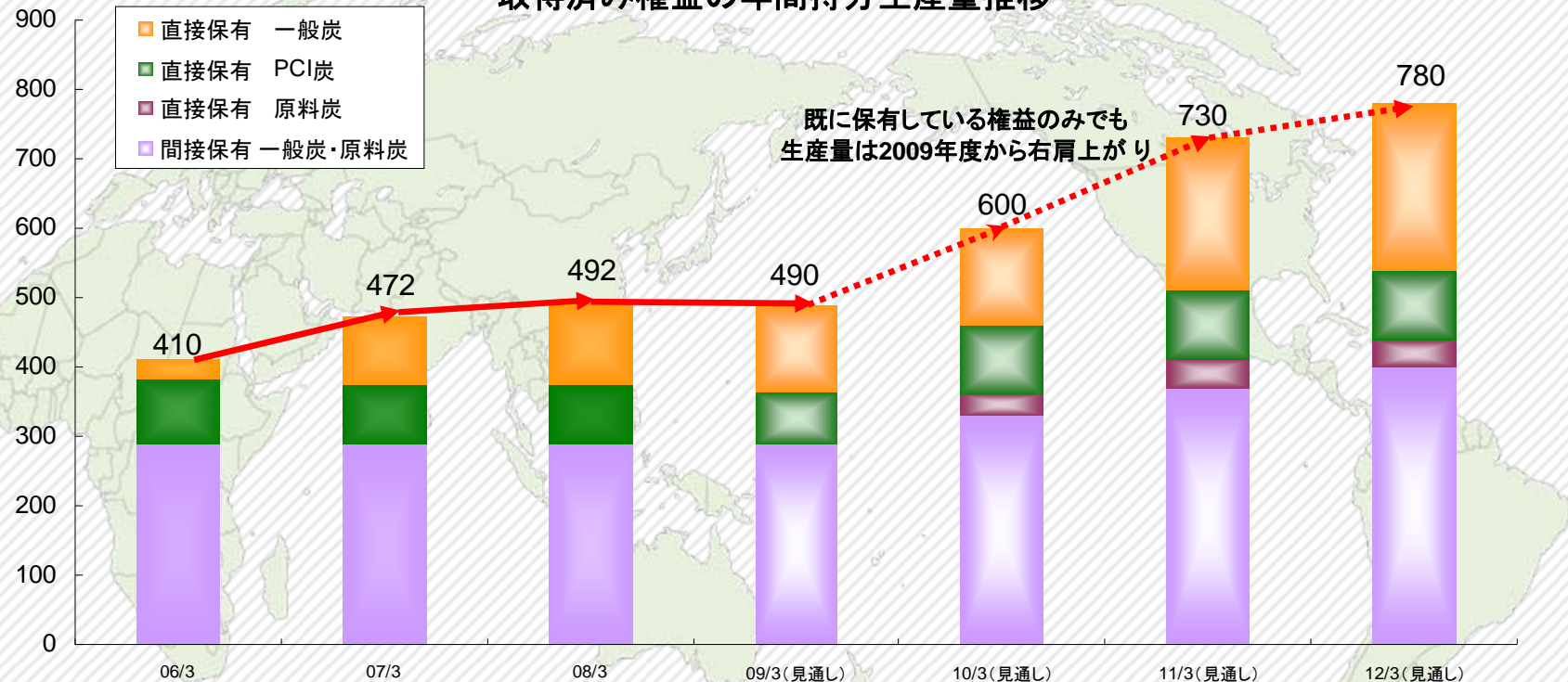
—今年度の取り組み—
英国北海・米国メキシコ湾・豪州・アフリカ等、
引き続き地域分散を考慮しつつ投資を拡大

□ 成長事業の現状と今後の見通し — 石炭 —

NS2008期間中に実施した新規投融資のリターンは2009年度から本格化へ

(万t/年)

取得済み権益の年間持分生産量推移



既に保有している権益のみでも
生産量は2009年度から右肩上がり

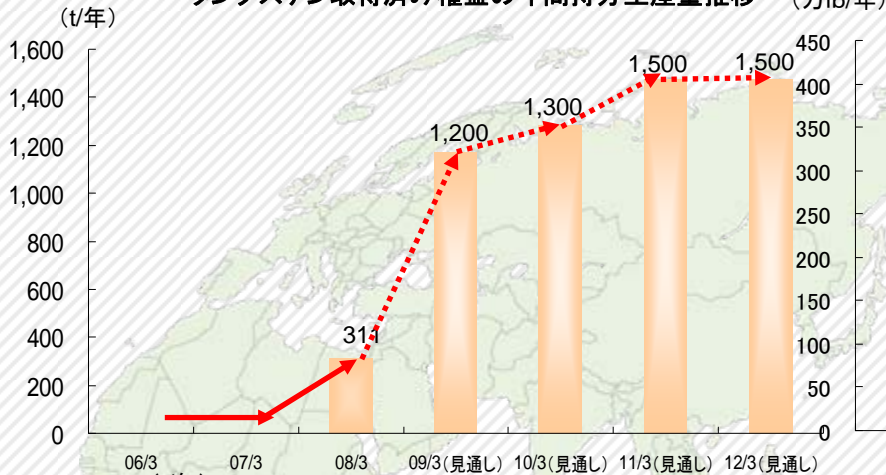
—今年度の取り組み—
豪州以外の地域でも、収益性を見極めながら
新規権益獲得を目指す



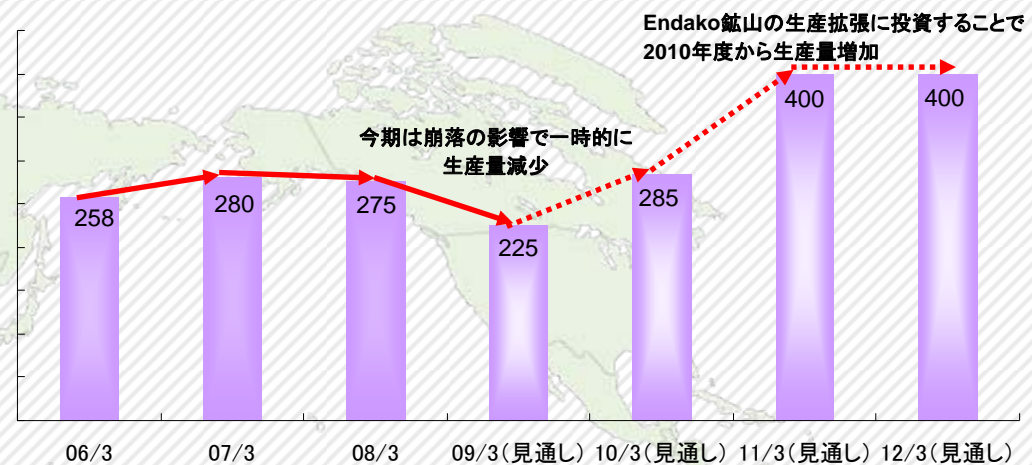
□ 成長事業の現状と今後の見通し —レアメタル—

NS2008期間中に好調に推移したレアメタル事業、2009年度から生産量大幅増加へ

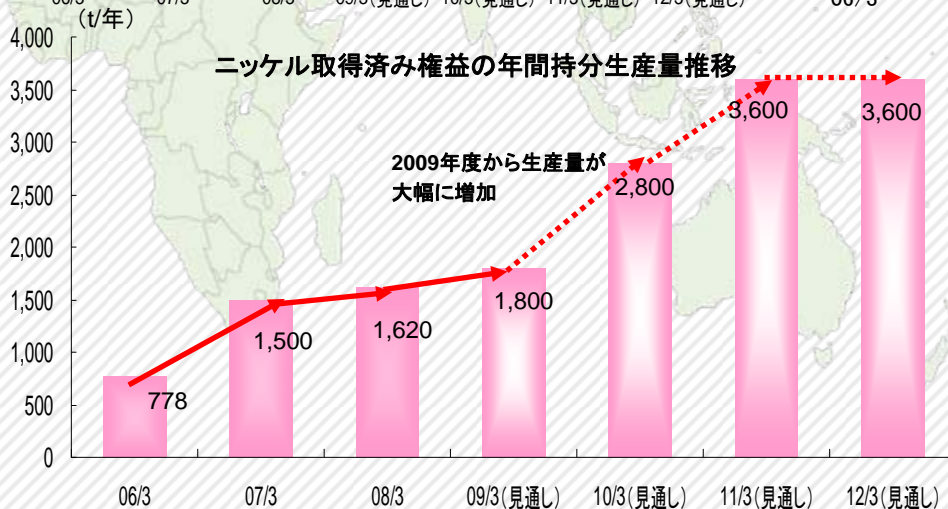
タングステン取得済み権益の年間持分生産量推移 (万lb/年)



モリブデン取得済み権益の年間持分生産量推移



ニッケル取得済み権益の年間持分生産量推移



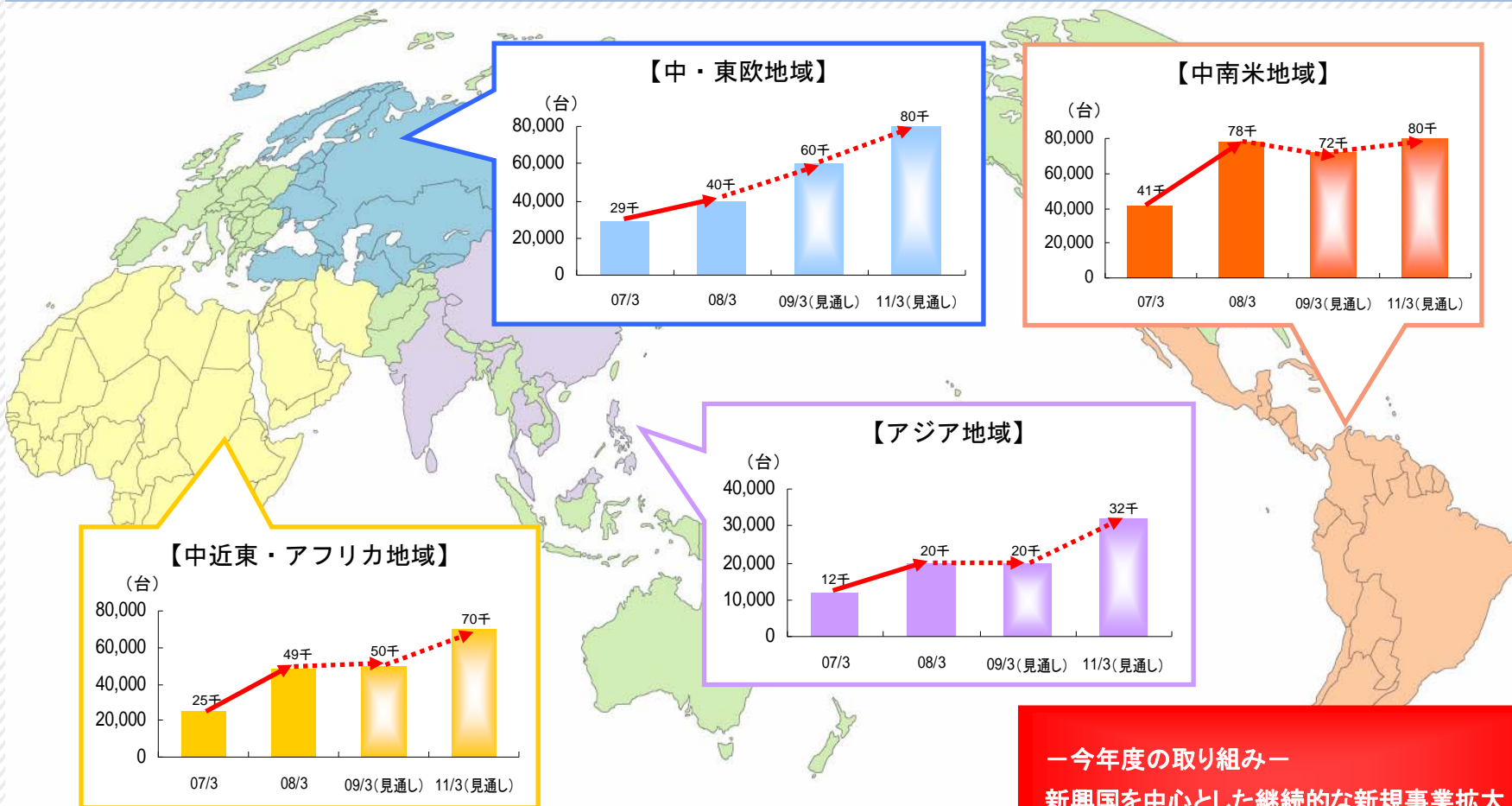
カナダモリブデン鉱山に追加投資
2010年度から生産数量
50~60%アップへ

—今年度の取り組み—

- 更に需要が見込まれる商品権益に投資しポートフォリオを拡充
- 中国以外での資源ソースを確保

□ 成長事業の現状と今後の見通し —自動車—

成長地域における完成車販売台数を増加



—今年度の取り組み—

新興国を中心とした継続的な新規事業拡大

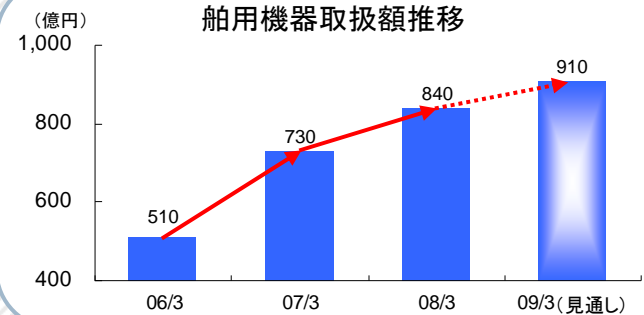
□ 成長事業の現状と今後の見通し —船舶—

総合力で強さを発揮



船用機器事業

- 50年以上の実績
- 船用機器取扱では輸出入、国内取引を含め約10%のシェア



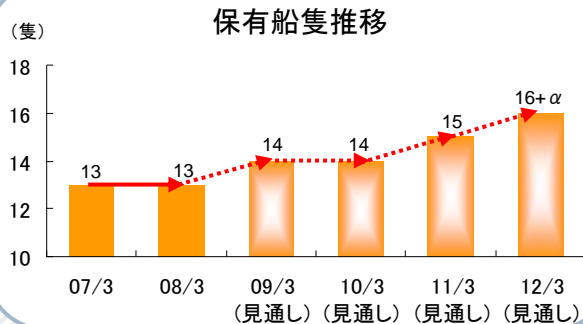
保有船事業

- スモールハンディからパナマックスまでのドライバルクキャリアを中心に、13隻を保有 (+ 建造中5隻)
- 現保有船をリプレースしつつ、中長期備船をバランスさせて運行管理

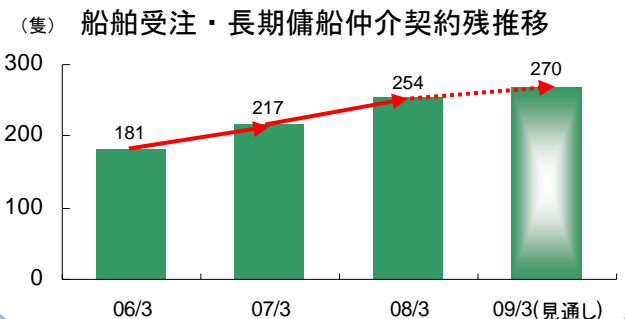
ワンストップでの機能提供

船舶受注・長期備船仲介事業

- 約250隻の新造船受注、長期備船仲介の契約残を確保



—今年度の取り組み—
引き続き安定収益基盤を拡大

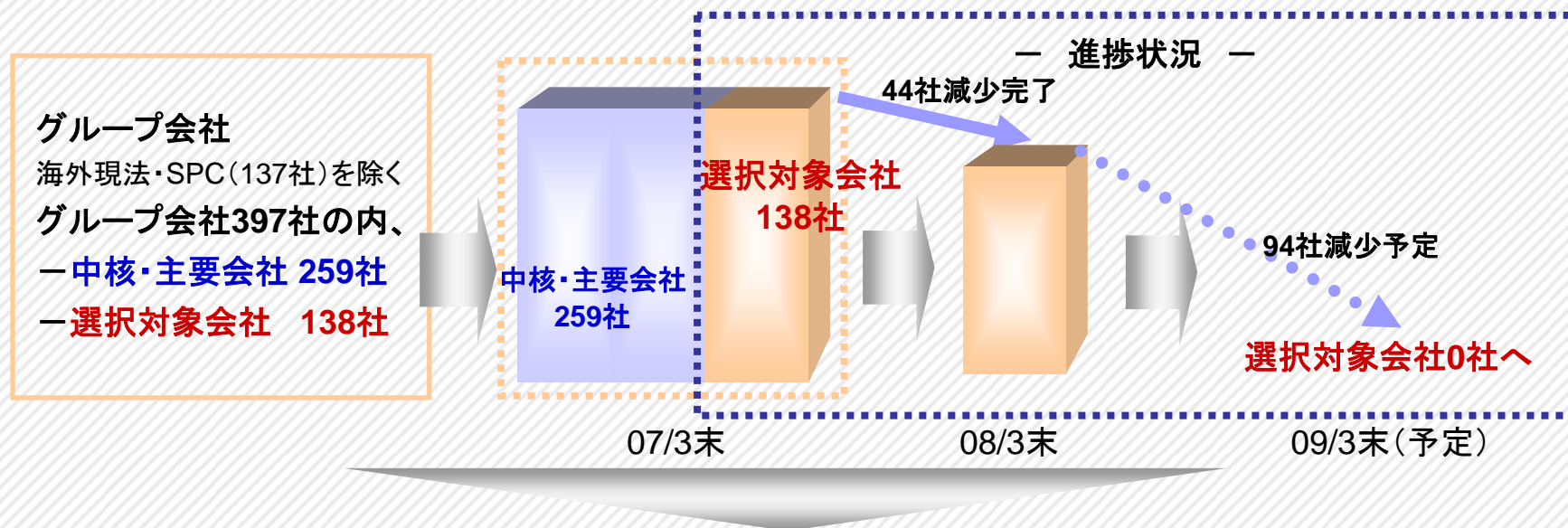


□ 収益構造の改善 —グループ会社再編統合—

グループ会社を対象に更に踏み込んだ選択と集中を実施しグループ経営基盤を強化

■ 選択と集中の目的

- 赤字会社を撲滅すると共に低採算会社に関しても選択(再編・統合)を実行
- 経営資源(人材・資産)の再配分によるグループ経営の効率化
- 会社数減少による全社管理コストの削減



赤字会社の撲滅と管理コストの削減でグループ収益力の強化

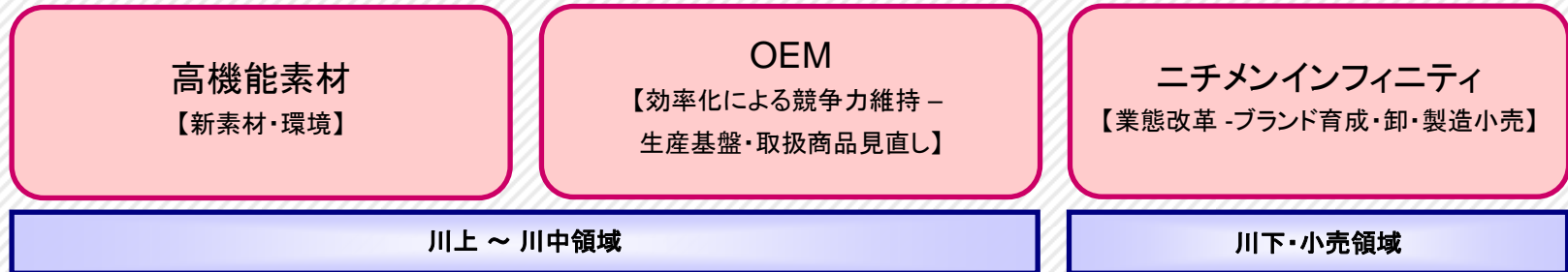
□ 収益構造の改善 — 繊維事業の再構築 —

環境・商権を分析し注力分野へ特化

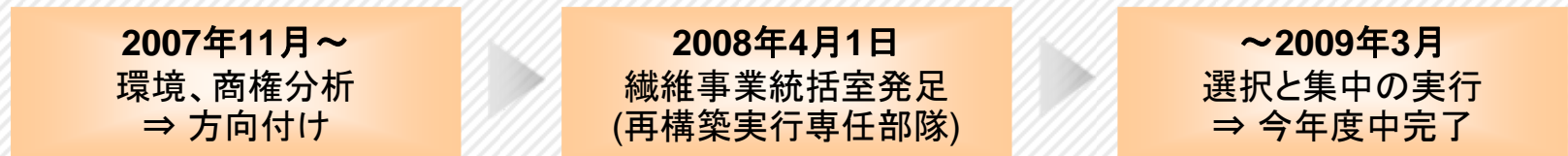
■ 概要

- 徹底的な内部・外部環境の分析
- 相手先別、商品別 約100の商権の分析、方向付け

■ 注力分野



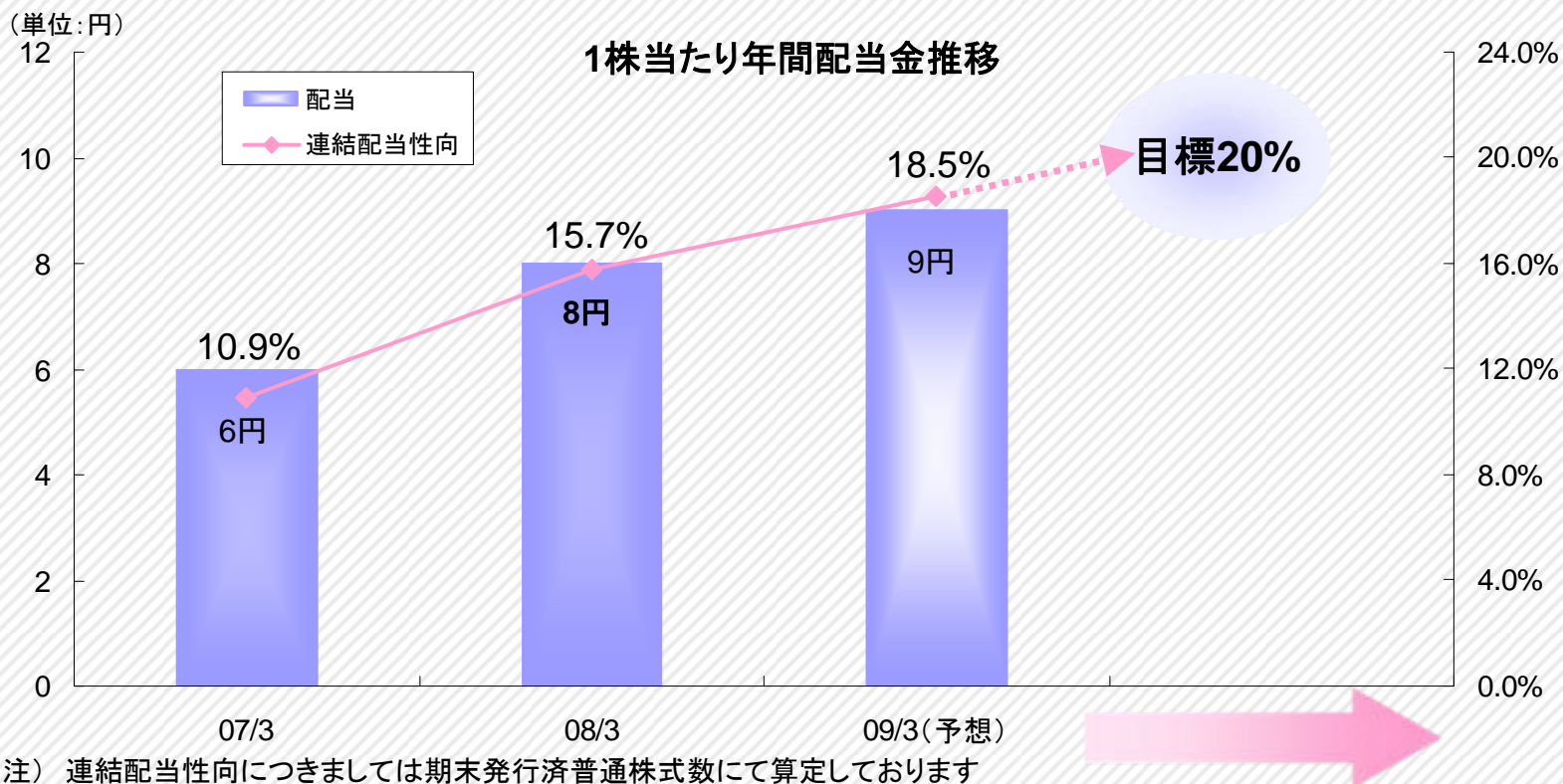
■ スケジュール



注力分野を軸とした成長基盤の確立

□ 利益配当金

2008年3月期は資本構造再編や最高益を更新したことなどにより前年比2円増配の8円へ。連結配当性向20%に向けて着実に進捗



配当に関する基本方針

安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと認識

■ 【補足資料】09/3期見通し 事業セグメント別状況

□ 機械・宇宙航空セグメント

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	増減	売上総利益 足元の状況と通期の見通し
売上総利益	748	750	+2	
自動車	359	365	+6	中南米で販売台数が減少するも、中・東欧地域、中近東・アフリカ地域での増加を見込み概ね横ばい
情報機電	146	164	+18	プラント受注残の積み上げにより増益
航空機	110	85	▲25	リース事業での保有機材の売却に伴うリース料収入の減少により減益
船舶	104	116	+12	マーケットが全般的に好調を維持し増益
経常利益	233	245	+12	

□ エネルギー・金属資源セグメント

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	増減	売上総利益 足元の状況と通期見通し
売上総利益	413	480	+67	
石油・ガス	174	228	+54	生産量増加、市況上昇により増益
石炭	31	77	+46	販売価格上昇により増益
金属資源	158	142	▲16	一部の合金鉄生産量減少により減益
経常利益	361	370	+9	

□ 化学品・合成樹脂セグメント

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	増減	売上総利益 足元の状況と通期見通し
売上総利益	538	510	▲28	
化学品	168	186	+18	取扱高の拡大を見込み増益
合成樹脂	155	157	+2	概ね横ばい
肥料	104	108	+4	原料価格上昇を見込むが、販売数量増加により概ね横ばい
メタノール	112	55	▲57	販売数量の減少および市況の下落を想定し減益
経常利益	170	135	▲35	

□ 建設・木材セグメント

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	増減	売上総利益 足元の状況と通期見通し
売上総利益	213	235	+22	
マンション	79	47	▲32	販売戸数の減少により減益
商業施設 開発	26	52	+26	卸売リビルの取引増加を見込み増益
木材	94	116	+22	需要の緩やかな回復、市況の安定を見込み増益
経常利益	47	110	+63	

□ 生活産業セグメント

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	増減	売上総利益 足元の状況と通期見通し
売上総利益	386	400	+14	
繊維・物資	267	260	▲7	製紙用チップの取扱増加を見込むが、繊維事業の再構築に伴う非衣料関連の取扱減少により減益
食料	119	140	+21	穀物・飼料およびマグロの取引増加を見込み増益
経常利益	1	25	+24	

□ 海外現地法人セグメント

(単位:億円)

	08/3期 実績	09/3期 見通し	増減	売上総利益 足元の状況と通期見通し
売上総利益	273	260	▲13	
米州	123	97	▲26	機械、金属資源の取引減少を見込み減益
欧州	46	49	+3	概ね横ばい
中国	37	37	±0	概ね横ばい
アジア	51	52	+1	概ね横ばい
経常利益	128	90	▲38	



sojitz

New way, New value

将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。